

## 西日本一のラベンダーガーデンを目指して

### 1 はじめに

関宮町別宮集落は、標高約700mにある50戸の集落で棚田が多い山間地域である。集落にはスキー場をはじめ、美しい棚田、大かつらの木等の天然資源や遺跡、神社等の文化遺産が豊富な魅力ある地域である。かつては、この豊かな地域資源を活かして、高原にはスキー、夏期合宿、登山等で入山者数が多かったが、近年、減少傾向にある。このため、高原の新たな魅力を創出し、夏場の観光誘致に結びつけようと、東鉢伏スキー場内にラベンダー畑を整備する別宮集落花畑計画がスタートした。

### 2 ラベンダー畑づくりの苦勞

1998年秋、スキー場内の標高860mの場所にラベンダーを20a植栽した。以後、毎年新植し、2002年には55a、1万2千株、県下一の規模になっている。

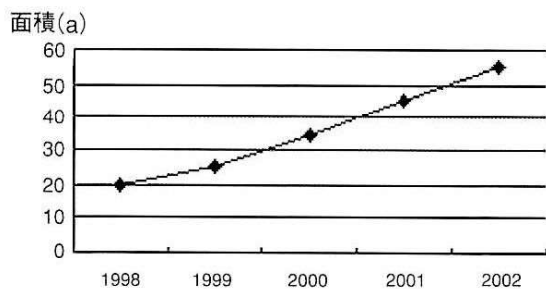


図1 ラベンダー栽培面積の推移

当初、ラベンダーに関するまとまった栽培データが少ないため、花き担当普及員は栽培指導にかなり苦勞した。ラベンダーは品種が多く、性質が全く違うため、冬は積雪、夏は梅雨がある東鉢伏高原にあった品種の選定に3年を費やした。また、ラベンダー栽培は雑草との戦いでもあった。中耕・除草の機械が使えないため、人力に頼るしかなく、大勢の労力が必要であった。さらに、12月上旬のせん定作業

ではハサミで1株1株切り揃えなくてはならないため、この作業も大勢の労力が必要であった。そこで、2002年に町の助成を活用し、省力化技術の導入を図った。まず、雑草については、防草シートを、せん定については、茶刈り機を改良したせん定用機械を導入し、省力化を図ることができた。



図2 改良型茶刈り機によるせん定

### 3 西日本一のラベンダーガーデンを目指して

2001年よりラベンダーフェスティバルを開催し、多くの人々が訪れるようになった。2002年にはラベンダーオーナー制度にも取り組み、アグリビジネスにも結びつけている。

今後はスキー場とともに地域を担う交流拠点となり、地域の活性化が一層図れるよう、西日本一のラベンダーガーデンを目指して、別宮集落と関係機関が一体となって取り組む予定である。



図3 オーナー制度で摘み取りを楽しむ

喜多 洋元（八鹿普及センター）